

植物保護学特論演習Ⅱ (2単位)

担当者氏名 根岸寛光・篠原弘亮

◆学習・教育目標

植物保護学特論Ⅱと一体の科目であり、これまでの学部の諸講義・実験・演習や卒論研究で得られたことを一層深化させ、修士論文研究課題に関係するこれまでの内外研究成果蓄積を整理して、独創的な研究展開に役立てると共に、読解力・文章力・発表力を磨く。

◆取り扱う領域（キーワードで記載）

病原学 発生生態 診断技術 防除技術
 病原微生物と植物の相互反応

◆授業の進行等について

	テーマ	内容	授業のねらいまたは準備しておく事項
1	論文購読(1)	植物と病害の相互関係・防除に関する論文を購読し、植物病理学全般および自分自身の研究分野に関する最新の研究状況を把握するとともに、研究の方向性・独自性および新規性について確認を行う。	自ら行ってゆく研究について、これまでの研究成果の蓄積を十分に把握するとともに、その蓄積に基づいて今後の研究方向の展望を開く。授業実施に際しては、これまでの知識技術とともに、最新の情報についての検索を進め、それらについて指導教員からの助言等を受け、研究実施や発表および論文執筆の能力向上に努める。
2	論文購読(2)	同上	
3	論文購読(3)	同上	
4	論文購読(4)	同上	
5	論文購読(5)	同上	
6	試験研究機関の見学(1)	試験研究機関を見学し、最前線の研究者との意見交換等を行い、研究に対する姿勢等を学ぶ	
7	試験研究機関の見学(2)	試験研究機関を見学し、自らの研究対象に近い分野の研究者との意見交換を行い、自分自身の研究手法や方向性について再確認を行う	
8	試験研究結果の検証(1)	実験から得られたデータについて、予測された仮説との整合性を見当する	
9	試験研究結果の検証(2)	上記のデータに基づき試験結果への考察を行い、その新奇性や独自性について検証を行う	
10	試験研究結果の検証(3)	研究とりまとめに際し新たに取り入れるべき知識・技法等について最終的な確認を行う。	
11	試験研究結果の検証(4)	関係する文献から得られる最新の状況と自らの現状とを比較検討し考察を深める	
12	論文執筆と発表の準備(1)	学位論文執筆と審査講演発表に必要とされる情報の種類を整理・把握する	
13	論文執筆と発表の準備(2)	学位論文執筆と講演発表に必要とされるデータを整理し、執筆および発表内容を精査する	
14	論文執筆と発表の準備(3)	精査された執筆および発表内容に従って講演要旨および論文本文の作成を開始する	
15	論文執筆と講演発表	要旨に従って講演発表を行うとともに、修士論文本	

		体を完成させる	
--	--	---------	--

◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料）

書名／著者／発行所（発行年）

Plant Pathology 5th ed./Agrious, G. N./Elsevier Academic Press (2005)

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所（発行年）

植物病理学/大木 理/東京化学同人（2005）

植物病理学/眞山滋志・難波成任編/文英堂（2010）

◆評価の方法（レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト）

積極的なゼミへの参加と学会発表成果等で評価する

◆オフィスアワー

原則として毎週月曜日午前 8:00～9:00。用件がある場合には事前に連絡を取ること

◆その他受講上の注意事項

学内外で開催される日本植物病理学会 EBC 研究会ワークショップ、日本農薬学会農薬生物活性研究会シンポジウム、日本植物防疫協会シンポジウム、報農会シンポジウムなど、植物病理学に関係する学術集会等への参加およびその内容に関するレポートを義務づけることがある。